〔金杉名譽會頭古稀記念論文〕

中耳眞珠腫ヲ思ハシメタル上鼓室異物

T. Haratomi: Fremdkörper im Attikraum, Welcher für Cholesteatom gehalten wurde.

熊本醫科大學耳鼻咽喉科教室 (主任 鰐淵教授)

原 富 敏 行

緒 言

耳鼻咽喉科領域ニ於ケル異物ノ症例ハ甚ダ多ク、聽器ニ於テモ外聽道異物ハ日常屢々遭遇スル所ナルモ、中耳腔異物ニ到リテハ甚ダ稀有ナルモノナリ。羽生、福島兩氏ノ統計ニヨレバ異物例300例ノ中、外聽道異物ハ104例ニシテ第1位ヲ占ムルニ拘ハラズ、中耳腔異物ハ僅カニ2例ヲ算スルノミナリ。種村氏ノ統計ニヨルモ、外聽道異物45例ニ對シ、中耳腔異物ハ僅カニ3例ナリ。之中耳腔異物ハ罕ニ歐氏管ヲ通ジテ來ル事モアルモ、其大部分ハ外聽道ヨリ鼓膜ヲ經テ進入スルモノニシテ、之ヲ破損セザル限り、健全ナル鼓膜ハ異物進入ニ對シテ重要ナル中耳ノ保護器タルノ證ナリ。然ルニ鼓膜ニ病的穿孔アル場合ハ其趣ヲ異ニス。殊ニ中耳炎ノ治療中其危險多ク、吾人臨牀家ノ最モ戒心ヲ要スル點ナリトス。余ノ症例ハ中耳炎治療中、清拭用ノ綿塊ガ中耳ニ竄入シ、永ク停滯セシモノニシテ、其結果分泌物ニ變化ヲ來シ、耳鏡検査上、眞珠腫ト誤レルモノナリ。

症 例

、患者ハ兩側ノ難聴及ビ耳漏ヲ訴ヘテ、本年2月18日、吾外來ヲ訪レタル19歳ノ女ナリ。家族

歴ニ特記スベキモノナシ。患者ハ幼時ヨリ右側ノ耳漏アリテ、時々専門醫ノ治療ヲ受ケ居タルモ全治スルニ至ラズ。13歳ノ頃ヨリ學校通學關係上、毎日専門醫ノ治療ヲ受ケル事困難トナリタル爲メ、自宅ニ於テ自ラ分泌物ヲ清拭シ居タルガ、其頃ヨリ分泌物ハ次第ニ膿性トナリ、惡臭ヲ帶ビ來レルニ氣付キタリ。尙ホ17歳ノ時左側ノ耳漏ヲモ見ルニ至リタリ。經過中患者ハ耳痛及ビ耳閉塞感ヲ訴ヘタル事ナク耳鳴、眩暈等ニ惱マサレタル事モナシ。患者ハ生來健康ニシテ、耳疾患以外ニ今日マデ著患ヲ知ラズ。

現症。患者ハ體格、營養共ニ良好ニシテ、兩側慢性上顎竇蓄膿症ヲ證明シ得ル以外ニ全身的ノ疾患ヲ認メズ。局所所見トシテハ鼓膜ハ兩側トモ全部缺損セリ。左側ハ槌骨把柄ハ露出シ、少量ノ膿性分泌液附着ス。之ヲ清拭スルニ、中耳腔前上方ハ上皮ニテ覆ハレ、灰白色ヲ呈ス。其他ノ部分ノ粘膜ハ淡暗赤色ヲ呈シ肉芽様ナリ。右側ノ中耳腔ニハ左側ト同様ニ膿汁附着ス。之ヲ綿棒ニテ清拭スルニ、膿汁ハ左側ニ比シ惡臭アリテ、少量ノ乾酪様ノ物質ヲ混ゼリ。之ヲ拭キ去ラントセシモ、中耳腔ハ上鼓室ニ至ルマデ帶黃白色ノ光澤ナキ乾酪様物質ヲ以テ充サレ、全部ハ除去スル事ヲ得ズ。小聽骨ハ全ク

之ヲ認メズ。右側外聽道後壁ノ皮膚ハ、鼓膜移行部＝相當スル部分ハ缺損シ。尙ホ此部分ノ骨ハ「カリエス」トナリ。中耳腔ト同様ナル乾酪様物質附着セリ。聽力ハ兩側共相當高度ノ難聴アリ。ハルトマン氏音叉ニヨル聽力検査成績ハ下ノ如シ。

	c	c ¹	c ²	c ³	c ⁴
右	26%	24%	11%	10%	27%
左	33%	50%	39%	58%	43%

右		左
15cm	T. U.	60cm
+ 6 "	Schw	+ 7 "
	W	→
(-)	R	(-)

以上ノ所見ヨリ。左側ハ單純ナル慢性穿孔性中耳炎ナルモ。右側ハ中耳眞珠腫ノ疑ヒアリ。故ニ直チニ入院セシメ。根治手術ヲ行フ事トセリ。

經過。入院後細菌検査ヲ行ヒタルニ連鎖狀球菌(++)。肺炎双球菌(+)ニシテ。其他ノ雜菌ハ認メズ。血液所見ニ變化無シ。22日右耳根治手術ヲ行フ。型ノ如ク皮膚切開ヲ加ヘ。乳嘴突起部ヲ露出スルニ其部ノ骨膜及ビ骨質ニハ何等病的變化ヲ認メズ。乳嘴蜂窠ハ幾分萎縮セリ。中耳腔ニ達スルニ。上鼓室ニ相當セル部分ハ帶黃白色ノ乾酪様物質ヲ以テ充サル。消息子ヲ以テ觸レルニ柔軟ニシテ。周圍ノ骨部トハ僅カニ移動スル事ヲ得。細心ナル注意ノ下ニ之ヲ除去シタルニ。其中ヨリ綿棒ノ綿ノ如キモノヲ發見シタリ。之ヲヨク檢視スルニ。正シク腐敗セル綿塊ナリ。其部分ノ「カリエス」トナレル部分ヲ全部除去セリ。小聽骨ハ全部消失シ。外聽道後壁

上鼓室ヨリ取出シタル綿塊

ノ骨モ一部消失シ。周圍ハ「カリエス」ノ狀ヲ呈ス。靜脈竇ハ前方ニ位置シ。乳嘴蜂窠ノ尖端ニ於テ早クモ靜脈竇壁ニ達ス。竇壁及ビ附近ノ骨部ニハ變化ヲ認メズ。中耳腔及ビ其他ノ創面ヲ清淨ニシ。外聽道後壁ノ皮膚ヲ翻轉シ。「ガーゼタンボン」ヲ行ヒ術ヲ終ル。術後發熱等ナク。6日目ニ第1回「ガーゼ」交換ヲ行ヒタルニ。少量ノ分泌液附着セルノミニシテ。惡臭ナク。創面ハ清淨ナリ。手術後ノ經過ハ非常ニ良好ニシテ。創面ノ分泌物ハ少量ニシテ。病的肉芽組織ノ發生全ク無シ。手術後12日目ニハ耳翼後ノ創面ヲ縫合シ。外聽道ヨリ「ガーゼ」挿入ヲ行フ事トセリ。其後ノ經過モ良好ニシテ創面ハ次第ニ表皮ヲ以テ覆レタリ。

	c	c ¹	c ²	c ³	c ⁴
右	23% (26)	26% (24)	12% (11)	13% (10)	37% (27)
左	41% (33)	58% (50)	61% (39)	56% (58)	56% (43)

() 内ハ手術前ノ成績ナリ。

右		左
15cm	T. U.	80cm
+13 "	Schw.	+12 "
	W	→
(-)	R	(-)

入院以來左耳ハ毎日 硼酸水ヲ以テ耳洗滌ヲ行ヒ、硼酸末散布ヲ行ヒタルニ、分泌物ハ次第ニ減少シ、3月中旬ニハ殆ンド分泌物ヲ認メザルニ至レリ。3月16日以後試ミニシバラク耳洗滌ヲ中止シタルニ、再ビ少量ノ分泌物ヲ認メルニ至リタルヲ以テ耳洗滌ヲ開始シタリ。3月28日ニ行ヒタル聴力検査成績ハ上記ノ如シ。

結 論

本症例ハ綿棒ノ綿ノ中耳腔異物例ニシテ、耳鏡検査上、アタカモ中耳眞珠腫ノ如キ像ヲ呈シ、根治手術ニヨリ初メテ發見除去セラレ、手術後経過ヨク、全治セン症例ナリ。一般ニ中耳腔異物ハ Passow 氏等ノ主張セル如ク、普通ノ慢性中耳炎ニ比シ、経過惡シク、且ツ重篤ナル合併症ヲ起ス事多キモノナリ。殊ニ本患者ノ如ク、靜脈竇ガ異常ニ前方ニ位置セルモノニ於テ

ハ、靜脈竇周圍炎並ニ竇血栓ヲ起ス危險性ハ相當大ナリ。幸ニシテ本患者ハ之ヲ未然ニ防ギ得タリ。合併症ハ大部分ハ内部ニ進ミ、頭蓋内合併症ヲ起スモノナルモ、古城氏ノ例ノ如ク、サントリニー氏截痕ヲ經テ、化膿性耳下炎ヲ起セン例モアリ。

本患者ノ異物進入ノ時期ニ就テハ確實ナル事不明ナルモ、13歳ノ頃ヨリ分泌物ニ惡臭アルニ至レリトノ事ニテ、其頃ニ進入センモノト思ハル。患者ハ其頃ヨリ學校通學ノ都合ニヨリ、毎日専門醫ヲ訪ル、事不可能トナリタル爲メ、時々自宅ニテ自ラ治療ヲ行ヒ居タリ。此事實ヨリ、患者自身綿ヲ耳内ニ置キ忘レタルモノト思ハル、モ、或ハ醫師ノ不注意ノ爲メ生ジタルモノナルヤモ知レズ。吾人臨牀家ノ最モ注意スベキ事ナリ。

擧筆ニ際シ恩師鰐淵教授ノ御懇篤ナル御指導及ビ御校閲ヲ深謝ス。

文 献

1) 福島, 羽生: 耳鼻. 第7卷, 2號. 2) 古城九州男: 耳鼻. 第1卷, 4號. 3) 岡: 大日耳鼻. 第30

卷, 3號. 4) 種村: 大日耳鼻. 第40卷, 11號.